

介護職のスキル強化で認知症予防に新たな展望—

『脳活性化プラス実践士 養成コース』が登場

「らくしゅう式機能訓練®」をデイサービス等に展開している株式会社サングッドアソシエイツ（横浜市、代表取締役 三好宏岳）が、2023年春、新たに通信講座を開講した。「現場で働く介護士」を受講対象とし、動画と通信講座により脳機能訓練の実践プログラムを月ごとに配布。最短4ヶ月で、高齢者の認知症予防のための脳機能訓練を実践できる人材を育てる。介護士のスキルアップを目的とし、所属施設の利用者に対する安定的・継続的な認知症予防の取組を支援する。



【背景】

- ① 2023年6月「認知症基本法」が成立し、認知症の「予防」は重大な社会的課題。
実態として、介護士が、脳機能訓練プログラムの選定、実践・サポート法および効果の検証等の専門知識を学ぶ機会が無い場合、実効性のある「認知トレーニング（脳機能訓練）」を行う介護施設は少ない。
- ② 来年の介護保険制度改正に伴い、ケアマネージャーによる「介護予防プラン」作成業務が新たに加わる見込み。今後、より質の高い脳機能訓練と効果的に実践できる人材が求められる。
- ③ 多くの自治体で「認知症カフェ」や「脳トレ・健康教室」など地域の「通いの場」の創出が急務とされるが、参加する高齢者に対応できる指導員不足が課題となっている。（『認知症予防に資する効果的な取組事業に関する調査研究』2020年厚労省）

【ねらい】

- らくしゅう式の「脳機能訓練プログラム」を使用して、介護士が、介護施設で実践的な演習を通じてスキルを獲得する、というまったく新しい形態の講座。在宅高齢者と密接にかかわる介護士に、認知症予防のための脳機能訓練を「迅速に・実践的に・負担なく」学んでもらう。
- 実践場所となる介護施設においてプログラムの使用を許可するもので、認知症予防策強化、介護予防の質の向上を図り、多くの利用者の健康と幸福に寄与する。利用者にとっては、愉しみから導かれる「楽しく脳の健康習慣づくり」となる。
- 地域の高齢者施設や福祉団体との連携による「実践士」の有効活用が、地域全体の健康促進にも寄与する。自治体に必要な「指導員」の育成ができる。